

- 01 何故子供の頃に歯が生え変わるの？
- 02 臨床研究部からのお便りー第17回ー
- 「やまばとギャラリー」情報コーナー
- 03 5病棟の生活のひとこま⑩  
通所支援事業
- 04 Medical Safety Letter 安全便り(9月)  
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

何故子供の頃に  
歯が生え変わるの？

子供達は夏休みも終わり新学期となりましたが、受診された学童から“なぜ歯が抜けたのに新しいのが生えるの？”と質問がありました。皆さまはご存知でしたか？

人間は胎生7週目ぐらい、すなわちお母さんのお腹の中にいる頃から歯の元となる原基とよばれる芽のようなものができます。生後8ヶ月頃から乳歯が生え始め、3歳頃までには上下左右で20本の乳歯全てが生え揃います。何でも食べられるようになり、体も発達してきます。すでに乳歯の下には永久歯は存在し始めており、同時に上顎、下顎ともに大きく成長していくわけです。しかし、すでに萌出している乳歯の大きさはそのままであり、次第に歯と歯の間には隙間ができて咀嚼が十分得られなくなります。顎骨の成長に伴い、それに見合った大きさと数が必要となり、乳歯から永久歯に生え変わります。子どものあごのX線写真を見ると、乳歯の下に永久歯が隠れているのが写っています。でも、どうして2回も生えてくるのだろうか？ それは歯の数を増やすため体が大きくなると、顎骨も大きくなり、歯の数も増えると考えられています。乳歯は生後6ヶ月から12歳までの10年間ほど大切に使用しますが、永久歯はその後一生大切に使い続けなければなりません。そのため乳歯、永久歯はその本数や大きさあるいは強度や色あいも大きく違うのです。

永久歯は乳歯を目指してのびる

永久歯は乳歯の下で成長しています。永久歯の根が作られ始めると乳歯を溶かす細胞が作られ少しずつ溶かされていきます。根がなくなると乳歯はゆれ始めてやがて抜け落ち、そのあとから永久歯に生え変わります。乳歯がうまく抜けなかったり、いつまでも残ったりすると永久歯の位置がずれて歯並びが悪くなることがあります。また、永久歯は乳歯を目指して伸びていくので、乳歯が早く抜けてしまうと永久歯が目標を失い、本来萌出すべき位置から離れた場所に出てしまうことがあります。生え変わりは6歳ごろから始まり、12歳過ぎには上下顎の親知らずを除く計28本永久歯が生えます。ただし、生まれつき永久歯の数が少ない人もいます。2007年日本小児歯科学会の調査では、永久歯の数が少ない「先天性欠如歯」子どもが約10人に1人の確率でいることがわかりました。できるはずの永久歯の芽ができていない、またできても育たないのです。これは人間の退化の一種だと考えられ、多くの場合は原因不明です。

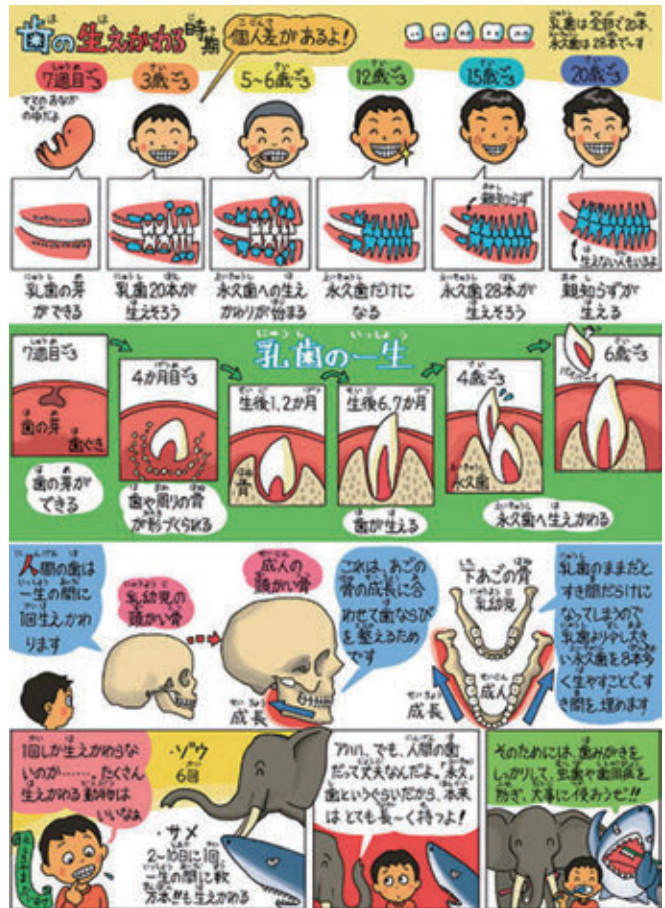
動物の歯は生え換わるの？

猫や犬も乳歯があり永久歯に生え変わりますが、乳歯永久歯と2種類あることを「二性歯性」と言います。生え変わりは1回だけでこれは哺乳類の特徴です。爬虫類以下の脊椎動物では「多性歯性」と言い、何回も歯が生え変わり、歯の形もす

べて同じ円錐形をしています。サメの歯は2日から10日に1回、新しい歯に交換されます。新しい歯はあごの骨の内側でどんどん作られて外側へ押し出されます。そして外側に追いやられた歯が抜け落ちると次の歯におきかわるとい仕組みになっています。象の歯は抜けて生えることを一生の間に6回繰り返します。ネズミの歯は生まれ変わることなく、前歯は一生伸び続けるため、硬いものをかじって前歯を削っています。

人の寿命が延びるなか、乳歯から永久歯への交換時期は大きく変化することはありません。今後、自分の歯で食べ続けること、すなわち健全な永久歯をいかに長く保っていけるがさらなる課題となるのではないのでしょうか。

(歯科口腔外科医長 松村 佳彦)



「イラスト版 歯のしくみとケア」(渡辺和宏編、合同出版)